

研究分野のキーワード：日本近現代文学・文化，植民地文学，アニメーション文化学

研究紹介

専門とする分野は、日本近現代文学・文化です。しかしながら、日本近現代文学・文化の研究対象は、「日本」だけではなく、かつて植民地にしていた台湾、韓国も含まれると考え、研究しています。また日本文化にとって、アニメーションは重要な研究対象です。とりわけ、ジブリアニメはその内容、影響力から考えて、見過ごすことのできない研究対象です。

では、いったい研究とはどのような事をするのでしょうか。以下、具体例をあげていきます。まず、日本近現代文学・文化研究から説明します。最低限必要とされるのは、小説本文の検証です。高校生の使っている教科書（現代文）には、例えば芥川龍之介の「羅生門」、夏目漱石の「心」などが掲載されていると思います。研究する場合には、それらの小説が掲載された新聞・雑誌などを調べて、どのような形態（あるいは状況下）で世の中に出回ることになったのか検討します。その上で、作品の分析を進めることとなります。

植民地文学研究の場合であれば、歴史的事実の検証が必要になります。歴史的事実の調査のために史料を収集し、分析します。史料の収集については、現地へ赴き、図書館などで調査する必要があります。そのためには、英語だけではなく、ハンガルや中国語の能力も身につけておくことが求められます。流暢に会話をする事までは必要ありませんが、辞書を使いながら、文献資料を読み解いてゆく作業をすることになります。

ジブリアニメについては、娯楽作品として観るのではなく、文化的・歴史的背景を読み込んでゆきます。作品の背後に隠されている、歴史や時代の問題について考えます。「なぜ、戦争を描くのか」「人間と自然の争いは何を意味しているのか」という問題を、たんに作品内の問題としてではなく、作品を取り巻いている時代状況や、歴史性に焦点を当てて考察を進めてゆきます。このような考察の方法は、文学研究と同じであると言ってよいと思います。

さて今まで述べて来たことからお分かりのように、研究には様々な手続き、アプローチの仕方などがあり、とても一括りにできるものではありません。最後に一つだけ付け加えますと、どのような研究方法であれ、理論的な背景が必要になります。「文学理論」は、文学に限らず、歴史学や社会学、あるいは哲学とも接点を持っています。言わば、「作品」から離れた場所から「作品」を見直し、読み解くこととなります。恐らく「文学理論」の必要性という点が、高校で学ぶ「現代文」の授業と大きく異なる点ではないでしょうか。しかし「文学理論」は、私たちの思考を鍛え直してくれます。私たちは「文学理論」を学ぶことで、「作品」をより正確に、そして緻密に読み解くことができるようになります。これからも「文学理論」を基にしながら、作品の分析に取り組んでゆきたいと考えています。